

解答

②

ここまでの問題でもたびたび出てきたが、返り点の付け方と書き下し文の組み合わせを問う問題では、**傍線部にある句法や返読文字・再読文字に着目し、そこから決めていくことが解法の鉄則だ。**

本問では、比較形の「不如」がポイントである。比較形の3つの関係を整理しておこう。

	(訓み)	(意味)
A如(若) B	AはBのごとし	AはBのようだ(A≠B)
A不如(若) B	AはBにしかず	AはBに及ばない(A≠B)
A莫如(若) B	AはBにしくはなし	Aの点でBに勝るものはない

「A如(若) B」は比況形で、(A≠B)の関係を示す。これに否定語の「不」がつくと比較形となり、「A不如(若) B」で(A≠B)の関係だ。一方、否定語でも「莫」がついた場合は最上級で、「A莫如(若) B」でBが一番ということになる。AとBの関係を押さえることが肝心だ。第6講でこの関係に着目して選択肢を絞る解法を示していたので、見直しておこう。

さて、傍線部では、「自知芸」を挟んで「法士」と「楊」が「不如」で比較されている。①・③・⑤は「ごとくならざる」が「不如」の訓みとして誤り。また、④のような「芸の如かざるは」という訓み方はできない。「不如楊」で「楊に如かざる」と訓む。よって、正解は②と判定できる。鄭法士は芸の点で楊契丹に及ばないことを自ら思い知った、ということである。

選択肢チエック

問

傍線部A「法士自知芸不如楊也」の返り点の付け方と

書き下し文の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

比較「くにしかず」

法士：不如楊

A 法士自知芸不如楊也

① 法士自知_レ芸不_レ如_レ楊也

② 法士_ヲ知_リてより楊のごとくならざるなり

③ 法士自知_二芸不_レ如_レ楊也

法士自ら芸の楊に如かざるを知るなり

④ 法士自知_レ芸不_レ如_レ楊也

法士自ら芸を知ること楊のごとくならざるなり

⑤ 法士自知_二芸不_レ如_レ楊也

法士自ら芸の如かざるは楊なるを知らんや

法士_ノ楊のごとくならざるを知るによらんや

☆「法士」と「楊」が比較されている

書き下し文

隋の田・楊鄭法士と俱に画を能くするを以て名あり。法士自ら芸の楊に如かざるを知るなり。乃ち楊に従ひて画本を求むるに、楊之に告げず。一日法士を引きて朝堂に至り、指すに宮闕・衣冠・人馬・車乗を以てして、曰く、「此れ吾が画本なり。子之を知るか」と。是に由りて法士悟りて芸進めり。

現代語訳

隋代の田僧亮・楊契丹は鄭法士とともに画才で名を知られていた。鄭法士は自らの才能が楊契丹に及ばないことを自覚していた。そこで楊契丹につき従って画の手本を求めたところ、楊契丹は教えてくれなかった。ある日、鄭法士を連れて朝堂にやって来て、宮殿・衣服や冠・人・馬・車を指差して、言うには、「これが私の手本です。あなたは分かりますか」と。これによって鄭法士は手本の何たるかを理解し、技芸が上達した。

重要語句

- 自 副詞では、「おのづから」と訓み、「自然と」の意の場合と、「みづから」と訓み、「自分で」の意の場合があるが、本文では後者。
- 乎 本文では、送り仮名に「ン」がなく、「之を知るか(や)」と訓んでいるので、疑問である。
- 由是 「由」は助詞の働きをする返読文字で、「くによりて」と訓み、理由を表わす。「由」と指し語の「是」を組み合わせた「由是」は、慣用表現で「これによりて」と訓む。「これによりて・こういうわけで」の意。

解答

⑤

傍線部は比較形と使役形が組み合わさっている。まず、「氷寒於水」が置き字の「於」を用いた比較形で、「氷は水よりも寒し」と訓む。また、続く「青勝於藍」は、「勝(まさる)」が動詞なので比較形ではないが、「青は藍よりも勝る」と訓んで、青が藍よりも上だということなので、意味的には比較とみなして良いだろう。

傍線部は、「この2つの句に」使で使役がかかる文構造となっている。それぞれの使役の対象である「氷」と「青」には「をして」をつけ、「氷をして」「青をして」と訓む。また、使役が2つの用言(動詞)にかかる場合、1つめの用言には助動詞の「しむ」をつけないのが決まりであった(↓第10講参照)。

よって、「寒」は「寒く」、「勝」は「勝らしむ」と訓む。選択肢を見ると、以上の訓みを踏まえた⑤が正解と判定できる。その他の選択肢は、比較の訓みと使役の訓みのいずれかに誤りがある。

なお、傍線部は『荀子』にある「青取之於藍、而青於藍。水水為之、而寒於水。(青は之を藍より取りて、藍よりも青し。氷は水之を為して、水よりも寒し。)」を踏まえたもので、現在でも**故事成語**で「青は藍より出でて藍より青し」あるいは「出藍の誉れ」と言う。筆者は、家柄や地位が低くても才能があった人物を記録に残すことで、生きていたときよりもその名を広く世に知らしめたという意味で、このように言ったのである。

選択肢チェック

↓使役は、2つの用言(寒・勝)にかかる
比較「よりも」

問 傍線部A「使_下氷寒_二於_上水、青勝_中於_上藍、則亦幸矣。」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 氷、水を寒からしめ、青、藍を勝たしむれば、則ち亦た幸なり。
② 氷は水において寒く、青は藍において勝らしむれば、則ち亦た幸なり。

③ 氷をして水よりも寒からしむれば、青は藍に勝ちて、則ち亦た幸なり。

④ 氷は水よりも寒く、青をして藍よりも勝らしむれば、則ち亦た幸なり。

⑤ 氷をして水よりも寒く、青をして藍よりも勝らしむれば、則ち亦た幸なり。

☆1つめの用言に「しむ」は付けない

書き下し文

余も細かに故人を懐ひ、門第の卑微にして、職位の振るはざるも、高才博識にして、俱に録すべき有れば、遂に其の本末を伝ふ。氷をして水よりも寒く、青をして藍よりも勝らしむれば、則ち亦た幸なり。

現代語訳

私も遠い昔の人たちのことを思いおこし、家柄が低く、官職や地位が振るわなくとも、高い才能や広い知識があつて、(名声のある人と)ともに記録すべきものがあればその人の一部始終を伝える。氷をもとの水よりも冷たくさせ、青色の染料をもとの藍よりもさらに青くさせることができれば幸いである。

重要語句

□ 故人 漢文では「昔なじみの友人・旧知の人」の意で用いられる。日本語のように「亡くなった人」の意ではないことに注意。